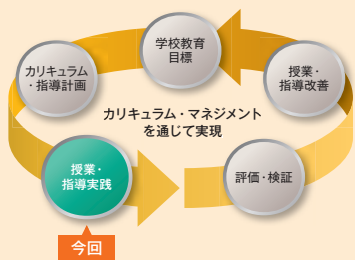


改革事例から導く！ 「学校教育デザイン」を描く道標

CASE

改革事例



「生徒の心に火をつける授業」を キーワードに掲げて学校全体で実践し、 生徒の学習意欲と学力の向上を図る

神奈川県立横浜翠嵐高校

教育活動の可視化を通じて、
教育の方向性への共通理解を図る

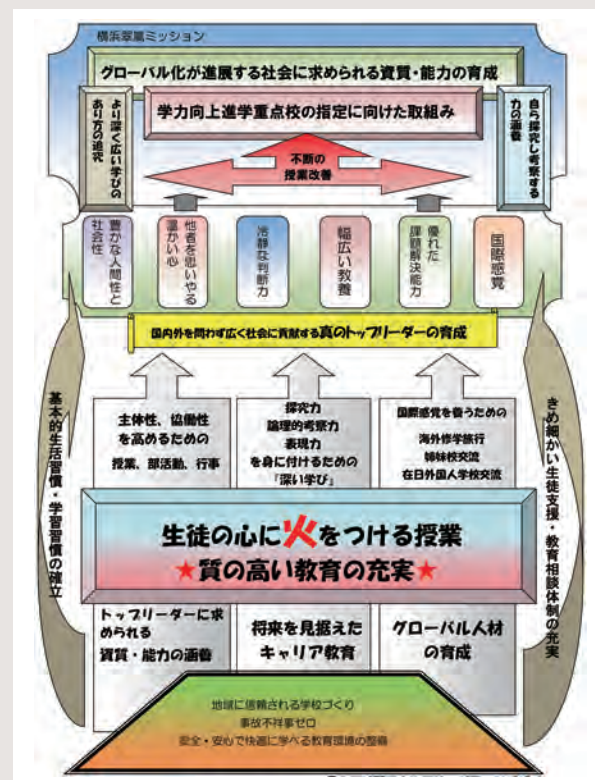
神奈川県立横浜翠嵐高校は、2013年度から、神奈川県「学力向上進学重点校」の指定を受け、真のトップリーダーの育成など、それまでも重視してきた教育目標の下、学校改革に一層邁進している。15年度には、校長、副校長、総括教諭ら9人による企画会議で議論し、4年間の学校教育計画を立案。その内容をグランドデザインとして示し、16年度から運用している(図)。佐藤

「本校がこれまで大切にしてきた教育活動が、どういった資質・能力を育み、本校のミッションの達成にどのように結びつくのかを改めて整理し、図式化しました。本校の教育の方向性が可視化されたことで、教師だけでなく、保護者にも本校の教育が理解されやすくなりました」

知識欲を刺激する授業で
本質の理解と意欲向上を図る

グランドデザインの要と言えるのが「生徒の心に火をつける授業」だ。

横浜翠嵐高校のグランドデザイン



*学校資料をそのまま掲載

「これは、アクティブ・ラーニングを私なりに解釈した言葉です。どんなに優れた指導の方法や内容も、生徒に意欲的に学ぼうとする姿勢がなければ、効果は発揮されません。教師それぞれで指導の方法や内容が違ってても、『生徒の心に火をつける授業』という目標は同じであると、共通理解を図りました」(佐藤校長)

教師はそれをどう具現化しているのか。ガイダンスグループリーダーの稲積清司先生は、担当教科の数学の授業について、次のように話す。「多くの生徒は、解答はできても、なぜそのような解法になるのかといった本質の部分までは理解しきれいていません。難関大学の入試や『大文学共通テスト』の試行調査を見ると、数学の原理・原則を理解していなければ解けない問題が少なくありません。そこで、『なぜ、そうすれば解けると思う?』などと、本質を突く問いかけをし、知識欲を刺激するようにしています」

*「学校教育デザイン」とは、本誌が2017年度6～12月号の特集で提唱した、「学校教育目標からカリキュラム・指導計画の策定、授業・指導実践、その評価・検証、授業・指導改善までの一連のサイクルが、カリキュラム・マネジメントを通じて実現される学校改革の営み」のこと。



神奈川県立横浜翠嵐高校校長
佐藤 到 さとう・いたる
教職歴37年。同校長として赴任して4年目。



神奈川県立横浜翠嵐高校
稲積清司 いなづみ・せいじ
教職歴14年。同校に赴任して11年目。総括教諭。ガイダンスグループリーダー。数学科。



神奈川県立横浜翠嵐高校
中村悠人 なかむら・ゆうと
教職歴10年。同校に赴任して6年目。ガイダンスグループ。数学科。



神奈川県立横浜翠嵐高校
渡邊 翼 わたなべ・つばさ
教職歴4年。同校に赴任して5年目。ガイダンスグループ。数学科。

神奈川県立横浜翠嵐高校

◎初代校長が掲げた「大平凡主義」を旨とし、勤労と責任を重んじ、自主・自律の精神に富む人材の育成を目標とする。2013年度から神奈川県教育委員会「学力向上進学重点校」（再指定）に向けた16・17年度のエントリー校を経て、18年度に再指定。アメリカの高校と姉妹校提携を結び、国際交流にも力を入れる。

◎設立 1914（大正3）年

◎形態 全日制・定時制／普通科／共学

◎生徒数 1学年約360人（全日制）

◎2018年度入試合格実績（現浪計） 国公立 大は、北海道大、東北大、東京工業大、東京大、横浜国立大、京都大、横浜市立大などに205人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、東京理科大、明治大、早稲田大などに延べ803人が合格。

◎URL <http://www.yokohamasuiran-h-pen.kanagawa.ed.jp/>

れば問題も解けると思いがちです。

『分かる』と『できる』は違うと何

度も伝え、その場で手を動かさせて

考えさせています。一方で、現実の

問題や現象を数学的に解釈してモデ

ル化する内容にも、本校の生徒は関

心が高いので、『総合的な学習の時

間』（「グローバル探究」）などでその

ような課題にも取り組ませています」

1年次から多用するグループワー

クも、生徒同士が刺激し合い、学習意

欲を高める場になっていると、ガイ

ダンスグループの渡邊翼先生は語る。

「分かったことや分からないこと

を周りと共有しながら学び合う関係

を築くことは、社会に出てからも求

められる大切なことだと、1年次か

らよく生徒に話しています」

学校説明会から

スタートする進路指導

進路指導においても、「生徒の心

に火をつける」ことを重視している。

その軸となるのが、3か月に1度、

学年ごとに行う進路集会だ。

「夏季休業前は発破をかけたたり、

体育祭後は気を引き締めたりと、学

年と時期に応じた話をします。その



写真 卒業生の医学部生を講師に迎え、1～3年生の医学部志望者が参加し、医学部の授業を体験。患者の症状や検査結果からどんな病気なのかを診断するといった課題について、スマートフォンで調べながら、グループで話し合った。

ために生徒とよく話して、様子をつかむようにしています」（渡邊先生）

最も大切にするのは初期指導であり、それは入学希望者への学校説明

会から始まっていると言う。

「3年後の進路の7割は、1年次

の過ごし方で決まると考えていま

す。そこで、学校説明会で本校の教

育方針と指導内容を説明し、入学し

てほしい生徒像を具体的に伝えてい

ます。中学生に本校での学びへの覚

悟を持たせるとともに、保護者に本

校の教育について理解してもらおう場

でもあります」（中村先生）

入学者説明会では、家庭学習時間

調査を行って家庭学習を意識づけ、

1年次の夏季休業までに学習習慣の

定着を図る。そうして、1年次秋の模

擬試験で好成绩を出し、その高い水

準を維持・伸長させることを目指す。

「大学入試という目標から逆算し

て、今何をすべきかを考えて行動す

る力は、社会でも求められます。進

路集会でもそうした話をして、目的

意識を持たせています」（中村先生）

卒業生による講演（写真）などを

定期的に行い、自分の将来を考えさ

せつつ、3年生の最後まで目標を諦

めさせない指導へとつなげている。

「最後は精神力も重要です。模擬

試験の結果から合格への道筋を示し

て自信を持たせるなど、担任とガイ

ダンスグループが連携し、生徒個別

に支援しています」（稲積先生）

学校教育計画の最終年度にあたる

19年度は、次期学習指導要領の実施

に向け、教育課程の再編も検討して

いく。そのためのプロジェクトチー

ムも立ち上げた。

『起業したい』『世界に貢献した

い』といった志の高い生徒たちの

ロールモデルとなるよう、教師自身

が学び続ける姿をこれからも見せて

いきたいと思っています」（中村先生）

導かれた道標

学校全体で目指す指導のあり方は、
共通理解を図りやすいシンプルなキーワードで示す